

中四国戦一番の激戦区となったFG-2クラスは高校生ドライバー大竹直生選手と林和宏選手のペアが優勝をさらった。



現役高校生、大竹直生 86が中四国開幕戦を制す！

2019年の中四国ラリー選手権が3月24日、広島県のテクニックスタージタカタを舞台にした「ラリーin安芸高田」で幕を開けた。

大会当日は雨から曇りと天候が変化し、路面状況も変わるなか、タカタのダートトライアルコース及び敷地外の林道に設定されたスペシャルステージを舞台に、計24台のマシンが各クラスで激しいタイム争いを展開。その中で最も注目を集めていたのが、8台で争われたFG2ク

1.中四国戦FG-1クラス入賞の皆さん。2.中四国戦FG-2クラス入賞の皆さん。3.TGRラリー-E-2クラス入賞の皆さん。4.TGRラリー-C-3クラス入賞の皆さん。

ラスだった。

同クラスでオープニングSSを制したのはホンダ・インテグラを駆る川本圭祐/森井康貴組でその後も好タイムをマーク。しかし、川本組はSS3でリタイアを喫してしまう。代わってトップに浮上したのが、トヨタ86を武器にSS2でベストタイムをマークした大竹直生/林和宏組で、SS4でもベストを奪ってそのまま逃げ切った。2位は辰巳浩一郎/成田正喜組、3位は関根康生/走出芽美組が入り、ブーンを駆るダイハツ勢が表彰台を分け合った。

弱冠18歳の大竹選手は僅か3戦しかラリー

経験はないが、メタハララリースクールで培ったドライビングスキルは高く、最後まで首位を守った。激戦区のFG2クラスを制覇した。大竹選手は、「精神的に疲れましたが、現役高校生として参戦する最後のラリーで勝てて嬉しいです」と振り返った。

一方、6台を集めたFG1クラスでは、スバル・インプレッサを駆るマクリン大地/大橋正典組がSS1でクラッシュを演じるなど波乱含みの展開で幕を開けた。その中で安定した走りを披露したのが、三菱ランサーを駆る寺川和紘/美野友紀組で全てのSSでベストタイムをマ





中四国戦 / 5. FG-3クラス優勝の松原久 / 広瀬香織組。6. FCクラス優勝の城本静夫 / 古賀孝広組インプレッサ。7. FG-4クラスは松岡竜也 / 縄田幸裕組が優勝。8. FG-1を制した寺川和紘 / 美野友紀組。9. FG-2・3位の関根康生 / 走出芽美組。10. FG-3・3位の芳谷巧 / 安藤恭平組。11. FG-3・2位の金森稔 / 柴田貴之組。12. FG-1・3位の西隆司 / 丸山晃助組。13. FG-2・2位の辰巳浩一郎 / 成田正喜組。14. FG-1・2位の長江修平 / 中岡和好組。



TGRラリーチャレンジ / 15. C-3クラスを制した杉本成 / 森塚真組86。16. E-1クラスは柴村浩之 / 住友哲郎組が優勝。17. C-1優勝の中川恵介 / 杉山諭詩組。18. C-2は中埜中 / 清田翔多組が優勝。19. C-3・2位の田中秀毅 / 田邊大輝組。20. C-2・2位の只野賢二 / 秋森且光組。21. E-2・2位の佐々木康行 / 岩田晃知組。22. C-1・2位の長島英紀 / 中本琢也組。23. E-1・2位の深津勇人 / 西川直治組。24. E-3・2位の柳本弘信 / 久保田毅組。25. E-4優勝の原田善夫 / 原田枝利子組。26. E-3優勝の細谷裕 / 東駿吾組。27. E-2クラスはこちらも高校生の大谷皇就選手と、廣田幸子選手のペアが優勝を飾った。

ーク。「いつものコドライバーはサービスを担当してくれましたが、今回は美野さんが良くやってくれました」と寺川組が今季初優勝を獲得した。ランサーを駆る長江修平 / 中岡和好組が2位、同じくランサーの西隆司 / 丸山晃助組が3位で表彰台を獲得した。

また今大会はトヨタGAZOO Racingラリーチャレンジの第1戦も同時開催されており、計7クラスに39台が集結していた。中でも激しいバトルが展開されていたのが、トヨタ86を対象にしたC3クラスで、杉本成 / 森塚真組と田中秀毅 / 田邊大輝組が序盤から激しい一騎打ち

を展開した。幸先の良いスタートを切ったのは田中組で、SS1でベストタイムをマーク。しかし、SS2からは杉本組がベストタイムを連発するなど驚異の追撃を披露。逆転で優勝を決めた杉本選手は「苦節3年目にしてやっとここに立てました」と振り返る。待望の初優勝を獲得した。田中組は僅差の2位で惜敗となり、平山将太 / 有馬晃一郎組が3位で表彰台を獲得した。

またトヨタ86を対象にしたE2クラスでは、ベテランの佐々木康行 / 岩田晃知組とルーキーの大谷皇就 / 廣田幸子組が激しい一騎打ちを展開した。タカタのダートトライアルコースを舞台にしたSS1で順調な出だしを見せたのはヌタハララリースクール出身の大谷選手で、「ラ

リーは2戦目ですが、タカタは地元なのでよく走っています」とオープニングステージを制覇。しかし、「ターマックは初めてなので、かなり抑えて走りました」と、大谷組は林道を舞台にしたSS2でトップから5秒遅れの3番手タイムに低迷。変わってベストタイムをマークした佐々木組が首位に浮上した。

とはいえ、大谷組はSS3、SS5でベストタイムを叩き出したほか、林道のSS4でもセカンドベストをマークするなどコンスタントな走りで逆転に成功する。

この結果、「初めて乗るクルマでしたが、とてもいい状態でした」と振り返った大谷組がE2クラスを制覇。佐々木組は2位、福西貴志 / 鈴木光祐組が3位に入賞した。